



シラバス参照

タイトル「2020年度シラバス」、フォルダ「行政政策学類」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	問題探究セミナー I		
担当教員	金井 光生		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	行:A
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位区分	必修
授業形態	演習	単位数	2
備考			
特修プログラム		ナンバリング	g3310010
教育目標との関係 (DPポイント配分)	基盤教育 基盤教育	最新の専門知識及び技術	20 %
		本質を見極めるための教養と学際性	20 %
		協働的な問題探究	30 %
		社会の改善につなげる創造性	20 %
		市民としての主体的態度	10 %
授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> ICT機器の活用		
授業概要とねらい	<p>【授業のテーマ】 大学で「学芸」をする者の責任と使命 【授業のねらい】</p> <p>「問題探究セミナー」は、「スタートアップセミナー」がアカデミック・スキルの定着を目的とするのに対して、現実の問題に対する理解・探究・解決を目的とする演習です。</p> <p>大学で読むにふさわしい名著のテキスト読解を通じて、読解力および想像力の養成だけでなく、みんなで議論しながら自ら thoughtful に思索し自分の言葉で文章表現することで現実の諸問題に対応できる能力を養成することを目指します。</p> <p>「一人では読めないものややれないことを、インストラクターの下みんなでコミュニケーションを通じて切磋琢磨しながらできる」というのが、大学のセミナー(ゼミ)の最大の意義であり魅力です。</p> <p>本演習でテキストとして取り上げる、エーリッヒ・フロム『自由からの逃走』(原著1941年)は、広く行政政策学類の専攻・専門に関連する汎用的で重要な古典的名著です。人間の自由と暴力的な権威主義・全体主義との関係を精神分析的・心理学的に鋭く分析したもので、これからみなさんがそれぞれの専攻・専門領域で研究テーマとしていく現代社会のアクチュアルな問題にも根底において非常に関係しています。本テキスト読解の中から、ぜひ、自分自身の関心に惹きつけて、大学4年間の学芸を通じて取り組めるような自分なりの真の課題・問題を発見してください。</p> <p>おそらく、みなさんにとって大学で接する初めての本格的な文献でなかなか読解するのが困難かもしれませんが、だからこそ、チャレンジするに値します。人間がレベルアップするための「脳トレ」としても、人類が再び過ちを犯さないための「教訓」としても。</p>		
単位認定基準	(1)本書の基本的な理解ができ基本的な知識を修得できる。 (2)テキストの用語や理論などを自分で調べて報告できる。 (3)テキストの内容について他者と対話・議論し深い理解ができる。 (4)本書の内容をふまえて、自分なりにthoughtfulに思索し自分の言葉で表現できる。		
授業計画	以下はあくまで予定であり、変更する場合があります。 時間的余裕があれば、映像鑑賞なども適宜取り入れます。		
	回	内容	
	1	ガイダンスとオリエンテーション	
	2	ディスカッション:「大学で「学芸」をエンジョイする自由と責任」について	
	3	フロム『自由からの逃走』第1章「自由 心理学的問題か?」	
	4	フロム『自由からの逃走』第2章「個人の解放と自由の多義性」	
	5	フロム『自由からの逃走』第3章「宗教改革時代の自由」1「中世的背景とルネッサンス」	
	6	フロム『自由からの逃走』第3章「宗教改革時代の自由」2「宗教改革の時代」	
	7	フロム『自由からの逃走』第4章「近代人における自由の二面性」	

	8	フロム『自由からの逃走』第5章「逃避のメカニズム」1「権威主義」
	9	フロム『自由からの逃走』第5章「逃避のメカニズム」1「権威主義」
	10	フロム『自由からの逃走』第5章「逃避のメカニズム」2「破壊性」・3「機械的画一性」
	11	フロム『自由からの逃走』第6章「ナチズムの心理」
	12	フロム『自由からの逃走』第7章「自由とデモクラシー」1「個性の幻影」
	13	フロム『自由からの逃走』第7章「自由とデモクラシー」2「自由と自発性」
	14	フロム『自由からの逃走』付録「性格と社会過程」
	15	全体のまとめ：自由と責任と「学問の自由」
	16	
教材・教科書	E.フロム(日高六郎訳)『自由からの逃走』(東京創元社、1951年)*購入をお願いします。	
参考図書	内山奈月・南野森[対談]『憲法主義』(PHP文庫、2015年) 加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』(新潮文庫、2016年) 金井光生『フクシマで日本国憲法<前文>を読む(福島大学ブックレットNo.10)』(公人の友社、2014年) 齋藤純一『公共性』(岩波書店、2000年)&『自由』(岩波書店、2005年) 安田一郎『フロム(人と思想)』(清水書院、2016年) H.アーレント(大久保和郎訳)『エルサレムのアイヒマン(新版)』(みすず書房、2017年)	
参考URL	国立国会図書館「日本国憲法の誕生」サイト: http://www.ndl.go.jp/constitution/ 金井光生「2016年平和的生存権覚書」PDF: http://ir.lib.fukushima-u.ac.jp/dspace/bitstream/10270/4503/1/2-502.pdf	
授業以外の学習	授業の予習・復習 図書館で参考文献を調べ読む ③レポート等の課題	
成績評価の方法	演習なので出席必須で、発言・議論・課題等を総合して評価します。	
成績評価の基準	S:単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた(90~100点) A:単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた(80~89点) B:単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた(70~79点) C:単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた(60~69点) F:単位認定基準の学修成果をあげられなかった(~59点)	
オフィスアワー	メールによる事前連絡により適時に対応します。	
授業改善・工夫	ディスカッションをしやすいように改良。	
留意点・注意事項	全授業の2/3以上の出席を評価の必須条件とします。 受講生の数や指導講師のスケジュールによって、授業の内容や順番などの変更がある場合があります。	
教員の実務経験の有無		

